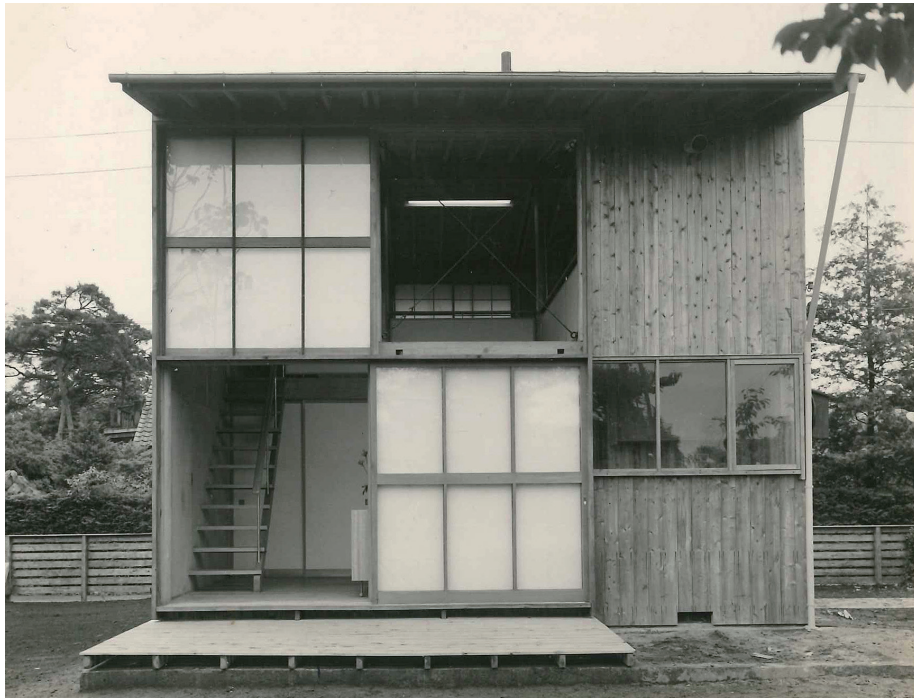


2025年3月7日

報道関係者各位

「最小限住居：増沢洵の自邸」を再現

2026年、広島県福山市に完成予定



Courtesy of Yukihiro Masuzawa

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団（広島県福山市 代表理事：神原勝成）は、広島県の福山市に建築家・増沢洵（ますざわ・まこと）氏による戦後の狭小住宅の代表作である自邸〈最小限住居〉（1952年3月竣工）を再現します。この建築は、戦後の最小限住居の象徴的作品のひとつで、必要最小限の機能を取り込みながら、吹き抜けによる開放感を生み出すとともに、モダニズムと日本建築を融合させ、戦後の新たな住宅の在り方を示唆した重要な建築作品です。当時アントニン・レーモンド事務所*に在籍していた増沢氏が金融公庫に当選したことがきっかけで26歳という若さで、東京都渋谷区大山町の敷地に設計期間2カ月、施工3カ月で竣工した住宅は、戦後の住宅史の中でも最も秀でた作品のひとつとして今日も高く評価されています。

神原・ツネイシ文化財団は今年初めて建築文化の祭典『ひろしま国際建築祭 2025』**を10月から福山市と尾道市を中心に開催しますが、建築祭と併行して、増沢洵（ますざわ・まこと）氏が1952年に建てた〈最小限住居〉を、実際に本住宅に住んでいた長男で建築家の増沢幸尋（ますざわ・ゆきひろ）氏の協力を得て、瀬戸内の海を見渡せる福山市の土地に2026年再現する運びとなっています。建築文化の振興を推進する同財団にとり、今回の再現プロジェクトは、戦後の日本の建築史を学び、その偉業を幅広く知る機会とし、大変意義深い取り組みと捉えています。完成後は一般公開を予定しています。

*日本の建築の発展に多大な影響と功績を残したチェコ出身の建築家が日本に設立した設計事務所。

** <https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

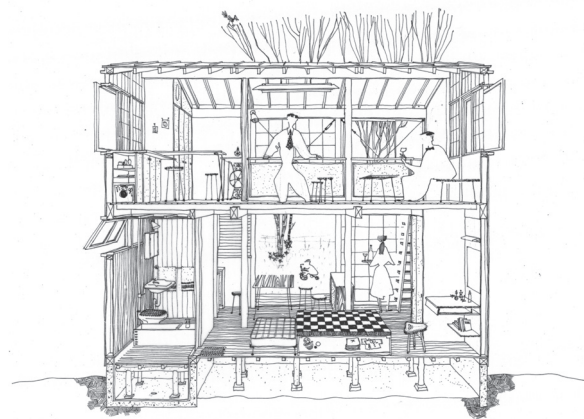
「最小限住居：増沢洵の自邸」再現プロジェクト概要

構想期間：	2022年～
竣工予定：	2026年
所在地：	広島県福山市
主催：	神原・ツネイシ文化財団
協力：	増沢幸尋
プロジェクトディレクター：	溝口至亮(神原・ツネイシ文化財団理事・GALLERY-SIGN代表)
実施設計：	桐谷昌寛(桐谷建築設計事務所)、西河秀和(西河秀和建築設計事務所)
施工会社：	株式会社のじま家大工店

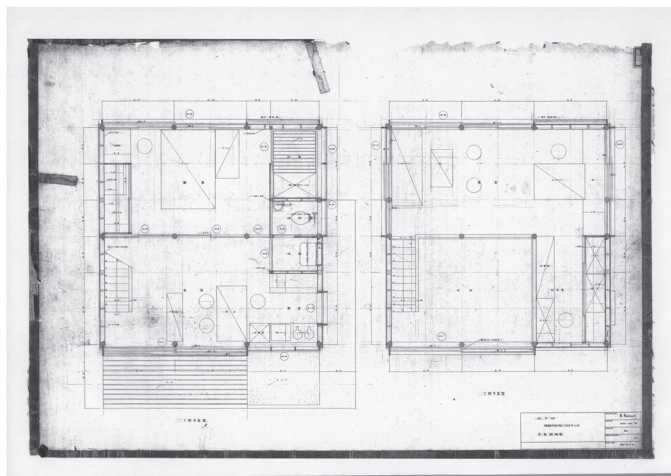
「最小限住居：増沢洵の自邸」

設計：	増沢洵
建築年：	1952年3月竣工
規模：	建築面積9坪 / 延床面積15坪
構成：	<1階> 居間、厨房、寝室 <2階> 書斎、家事室
所在地：	東京都渋谷区大山町

増沢洵のデビュー作である自邸を建てる上でのコンセプトは、「正直さ」「単純さ」「直截さ(まわりくどくないこと)」「経済性」でした。それは、師であるアントニン・レーモンドの5原則である「単純」「自然」「節約」「直截」「誠実」にも重なるものです。規格寸法にこだわり、市場で入手可能な定尺部材を採用し、最小限ながら居心地の良い空間をつくるために最大限の挑戦をした結果、3間×3間の正方形のプランが生まれました。当時の融資の限度である15坪にするため、3坪の吹き抜けをつくり、表しの丸太で構成した空間は近代建築の建築家ル・コルビュジェのピロティのようでもあり、見通しが良く、光と空気が入り込むオープン型のプランとなりました。このような試みも多く見られ、玄関を設けず、居間の外にスノコを置いて靴脱ぎ場とし、出入りを容易にするために、床も極めて低く設定されていました。家具も全て自身でデザインし、安価で量産性の高い合板と鉄を使用するなど、住居と同様にできるだけ無駄のない合理性が追求されていました。



Courtesy of Yukihiro Masuzawa



Courtesy of Yukihiro Masuzawa

PRESS RELEASE



Courtesy of Yukihiro Masuzawa



Courtesy of Yukihiro Masuzawa

プロフィール

建築家

増沢 洵 Makoto MASUZAWA

- 1925年 東京都生まれ
- 1947年 東京帝国大学工学部建築学科卒業
鹿島建設入社
- 1951年 レーモンド設計事務所入所
アントニン・レーモンドに師事
- 1956年 増沢建築設計事務所を開設
- 1963年 - 1965年 日本建築家協会理事
- 1964年 - 1965年 東京大学工学部講師
- 1967年 - 1968年 中央建築士審査会試験委員
- 1970年 ハワイ大学客員教授
- 1978年 成城学園の建築で日本建築学会賞作品賞受賞(昭和52年度)
- 1990年 死去 享年65歳



Courtesy of Yukihiro Masuzawa

建築家

増沢 幸尋 Yukihiro MASUZAWA

- 1949年 東京都生まれ
 - 1952年 - 1965年 最小限住居住人
 - 1972年 - 2022年 (株)増沢建築設計事務所
 - 1974年 早稲田大学理工学部建築学科大学院修士課程卒業
- 一級建築士、東京建築士会建築相談委員
日本建築士会連合会相談本部会主査、東京地方裁判所専門委員



Courtesy of Yukihiro Masuzawa

一般社団法人 神原・ツネイシ文化財団について

『ひろしま国際建築祭 2025』を主催する<神原・ツネイシ文化財団>は、建築文化を発信することを目的のひとつとして設立された財団です。

一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

所在地： 広島県福山市沼隈町常石1083

設立日： 2024年1月30日

目的： 1. 建築文化を軸にした展覧会、講演会、情報発信等の事業
2. 建築文化を軸にした地域活性化および雇用促進のための事業
3. 地域の建築文化、伝統文化、伝統産業およびまちなみの保全に関する事業

役員一覧： 代表理事 神原勝成

理事 石川康晴 内田道子 大原あかね 白井良邦 福武英明 溝口至亮

監事 足立仁

公式HP: <https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>

お問い合わせ先(一般用)

記事等でご紹介の際、ご記載いただく一般の方の問い合わせ先は以下になります。

一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団 公式ホームページ

<https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>

*公開予定などは、後日ホームページにてご案内します。

お問い合わせ先(報道関係者用)

報道関係者お問い合わせ先：一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

公式ホームページ <https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>

メール pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp (担当: 守田美奈子)

画像：関連画像をご利用の際は、事前に使用申請書を上記お問い合わせ先メールアドレスにお送りください。

※ご掲載の際は、画像に記載されているクレジット(Courtesy of Yukihiro Masuzawa)をご明記ください。

※メディアにご掲載の際は、事実確認のため上記メールアドレスにご連絡ください。

※メディアにご掲載の際は、掲載状況につきましてご一報いただけましたら幸いです。

申請書類 01

画像使用申請書

<対象画像>

最小限住居(増沢洵自邸) / Minimum House

<使用条件>

和文または欧文で、以下の写真クレジットを必ず明記してください。

和文表記

写真提供 / 増沢幸尋

欧文表記

Courtesy of Yukihiro Masuzawa

- ・写真の使用許可は、1回の申請につき1回限りの使用とし、使用済みのデータは必ず破棄してください。
- ・再度、写真を使用したい場合は、別途使用申請書を提出してください。・写真の無断での複製、転載はしないでください。
- ・写真を使用した媒体(印刷物等)は1部、必ず財団宛にお送りください。

<写真使用詳細>

・社名 | _____

・申請者名(所属部署) | _____

・媒体名 | _____

・特集名・番組名等 | _____

・掲載日・放送日等 | _____

上記の条件を承諾し、ルールに従い、写真の使用を申請いたします。 年 月 日

・社名/申請者名/押印 | _____ 押印

・申請者連絡先
電話番号 | _____

メールアドレス | _____

申請書送信アドレス

pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp(守田美奈子)